

イ 来訪者が安心して快適に過ごすことができる空間づくり

- ・インターネット接続環境（フリーWi-Fi等）を整備する。デジタルサイネージ、スマートフォン等情報更新の容易な端末を活用して、多言語で新鮮な情報を提供する。

②時代の流れを旅の中で感じながら飛鳥宮跡を訪れる仕掛けづくり

ア 飛鳥周遊観光を快適にする環境づくり

- ・近鉄飛鳥駅、郊外駐車場からのアクセスルート整備や案内・誘導サインの設置等により周遊性を高める。サイクリングや電気自動車等による回遊を考慮した動線整備と歴史的風土に配慮した沿道景観づくりを行う。

イ 来訪動機を喚起するコンテンツの制作

- ・飛鳥地域でしかできないゲームや、歴史の問題を解きながら周遊するアプリ等の開発を行う。

第8章 整備

3. 地区区分による整備の特色づけ

(1)地区別の整備方針(案)

第6章で区分した計画対象地について、保存の方針を踏まえた活用に繋げるため、地区別に整備方針(案)を示す。

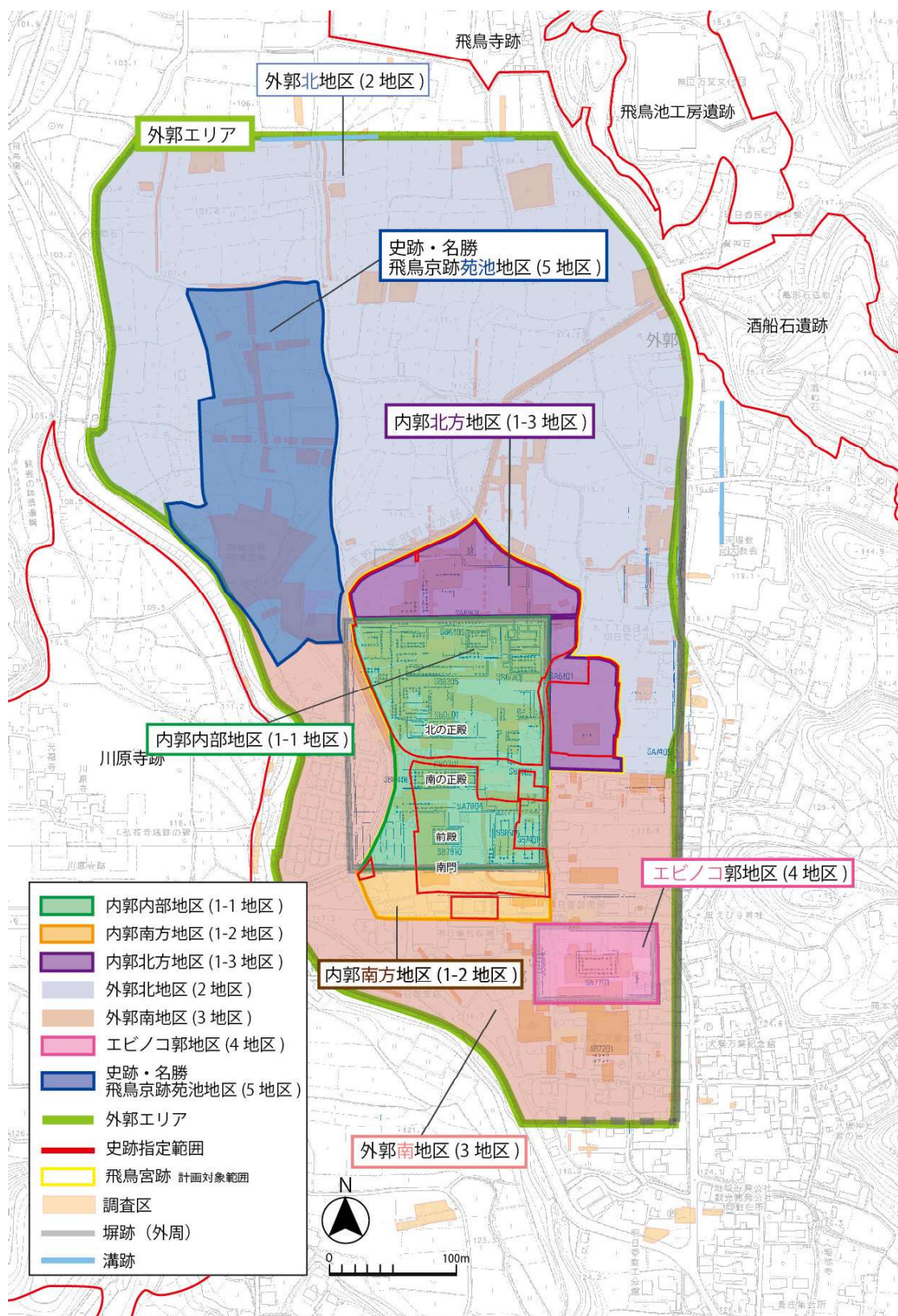


図 8-1 飛鳥宮跡の区分図

① 内郭内部地区（1－1地区、遺構復元・表示／歴史体験学習・イベント広場）

＜現状＞

南門（SB88010）、内郭前殿（SB7901）、南北東西建物（SB7401/SB8505）、内郭南正殿（SB0301）、内郭北正殿（SB0501）、長廊状建築物（SB6205）、大型井戸（SE6001）などが確認されている。

現在は、水田や倉庫、農小屋や住宅地が混在している。大型井戸は遺構表示を行っている。

＜整備方針（案）＞

内郭内部地区は飛鳥宮跡の中核地区であることから、保存活用の中核として位置づけ、先行して整備に取り組む。

宮の重要施設と考えられる施設がある内郭中央部から南側の遺構は復元等立体的スケール感のある表現を行い、北に向かって建物等の平面的規模を表示するなど、史跡整備が内郭中央部から北側の農村風景に自然と溶け込んでいくような視覚的連続性を確保し、史跡の本質的価値に密接に関わる要素である農村風景と共存する施設整備を行う。

内郭北側の外郭との境界部分は、当時の宮殿の大きさを来訪者が感じられるように塀の一部の復元等を行う。

② 内郭南方地区（1－2地区、遺構復元・表示／エントランス広場）

＜現状＞

砂利敷きの広場、石溝（SD7615）が確認されている。

現在は、郵便局や消防倉庫等の明日香村の公的機関と住宅地が存在している。

＜整備方針（案）＞

内郭南方地区は宮殿外部の庭にあたり、重要な儀式等が行われていたと想定される場所である。大極殿機能を持っていたとされるエビノコ郭に繋がるエリアでもある。

この地区は飛鳥宮跡のメインエントランスとして位置づけ、内郭内部と連携した活用を図る。

③ 内郭北方地区（1－3地区、景観緩衝帯／アクセスルート・サービス施設）

＜現状＞

塀と溝による回廊状の大きな方形区画（SD7630・SD5907）が確認されている。

現在は、水田が広がっている。東側の一部でⅡ期遺構である飛鳥板蓋宮の遺構の遺構表示を行っている。

＜整備方針（案）＞

宮殿外周部である外郭のうち内郭南方地区を除く範囲にあたり、歴史的風土の保全のための緩衝帯として位置づけ、農村風景の保存を基本とする。

東側は園路・植栽・サインが設置されており、徒歩あるいは自転車利用による酒船石遺跡方面からの動線上にある。

周辺施設との連携を図り、周遊ルートを設定し、史跡区域外を含めて地域住民や来訪者が快適に過ごすために必要なサービス施設の配置を検討する。

第8章 整備

史跡・名勝飛鳥京跡苑池と接する北西側では、苑池との一体的な利用のための園路やサイン等の施設整備を行う。

(2)地区別の整備計画

①内郭内部地区（1-1地区）：遺構復元・表示／歴史体験学習・イベント広場

かつての場の機能	・天皇の公的・私的空間／政治・儀式、内裏的空間
現状	・南北正殿間に道路があり、地区内は農地と宅地が有る ・地区の北東部は既往の整備区域がある ・北側は、農地越しに香具山や耳成山への展望が開ける
保存方針	・地下の遺構の確実な保存 ・一部を除き遺構表示を行い、周辺景観への影響を緩和
活用方針	・学習拠点 / 遺構復元ゾーン ・歴史学習・イベントの場として活用 ・飛鳥宮跡苑池、酒船石遺跡からのルート結節点
整備方針	・内郭の最重要の公的地区であることを顕在化させ。 ・内郭南方地区から見た「飛鳥宮殿の景観」を創出する内郭内遺構の見える化と、遺跡内景観および周辺の広がりのある景観への配慮
既存建造物の取扱	・原則撤去（現状で撤去困難なものは暫定的に存置）
整備施設（案）	・内郭前殿、内郭南門、南正殿等南柱列の遺構復元 ・遺構の表示、内郭北側外壁等の整備等 ・主要エントランス機能となる施設の整備（園路等） ・遺構の柱を足場とした展望所等ビューポイントの整備 ・芝生広場、屋外電源等の設置

現状の様子

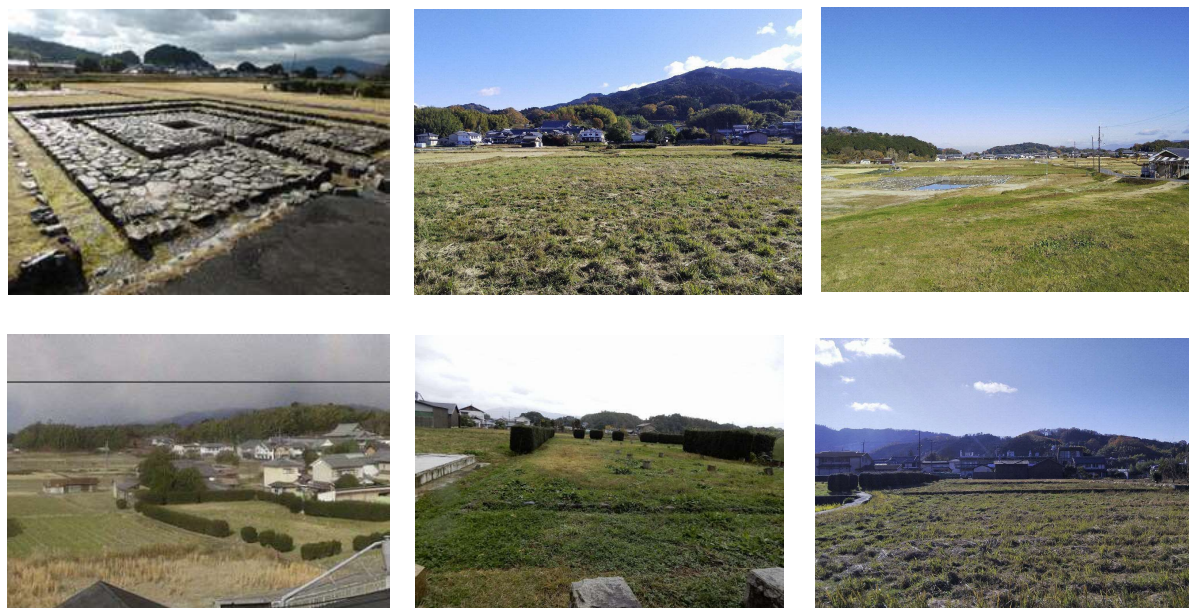
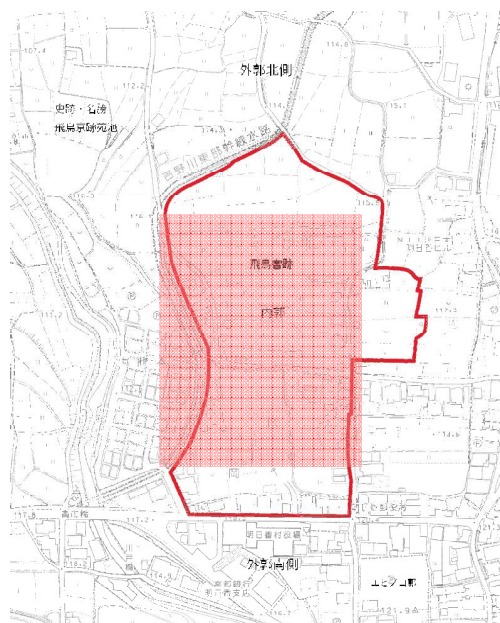


写真 8-7 内郭内部地区の様子

整備イメージ



配置機能（案）

- ◎**歴史学習・体験**
 - ・当時を視覚的に体感できる前殿や内郭正門(南門)等の主要建物跡、列柱の復元
 - ・天皇の私的空間である南正殿他、宮殿内施設の配置、内容の学習
 - ・復元建物内での歴史展示等、活用
- ◎**サービス**
 - ・復元施設での、飛鳥宮跡に関する情報発信
 - ・MR等を活用した復元施設外施設の可視化
 - ・遺構表示部分も含め、中規模イベント開催可能な空間の確保と必要設備
- ◎**景観保全・展望**
 - ・復元建物については、高齢者や幼児など歩行弱者に配慮したバリアフリーの検討
 - ・バリアフリー化された展望所等視点場、休憩施設、園路

第8章 整備

②内郭南方地区（1-2地区）：エントランスゾーン

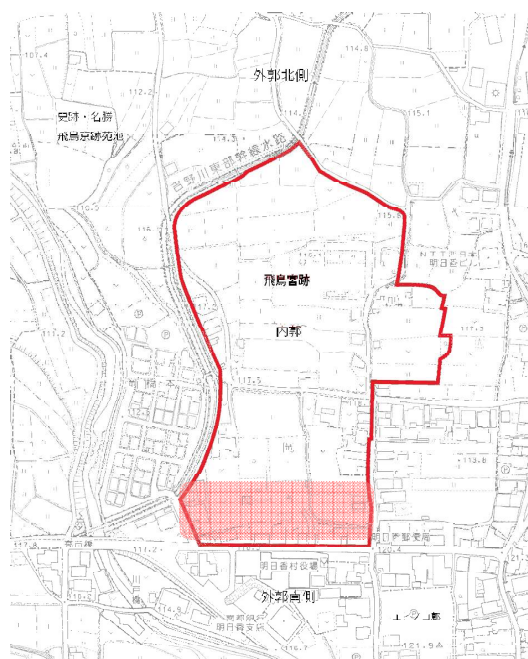
かつての場の機能	・ 重要儀礼の場
現状	・ 市街化区域内であり、公的施設や店舗、住宅、郵便局等公共施設などが存在
保存方針	・ 地下の遺構の確実な保存
活用方針	・ 来訪者を迎える主要エントランス ・ 歴史学習の場として活用
整備方針	・ 飛鳥宮跡の中核であり保存活用の中核となる内郭に面する地区として、内郭と一体的な整備を行う
既存構造物の取扱	・ 撤去を基本とするが、エントランス周辺の機能としてふさわしいものについては存置も検討する
整備施設（案）	・ 広場遺構のうち村道北側の内郭正門の正面をメインエントランス広場（礫敷広場）として整備し、律令制の象徴的空間である儀礼の場を再現する ・ 「バーチャル飛鳥京」やMR技術等による歴史展示、体感機能の整備を図る

現在の様子



写真 8-2 内郭南方地区の様子

整備イメージ



配置機能（案）

- ◎ **歴史学習・体験**
 - ・ 礫敷広場の遺構復元と村道から南門に至るエントランス
- ◎ **景観保全・展望**
 - ・ 内郭内部南地区・北地区の遺構復元施設を南から眺めることによる、古代の宮殿の景観再現